

2-9 文部科学省国際シンポジウム

分子科学研究所では創設の翌年の1976年から2000年まで「岡崎コンファレンス」を65回開催し、それぞれの分野のトップクラスの研究者を招へいし相互の経験や情報を交換することによって研究所の研究を国際的な最高レベルに高め、また参加された国内の研究者の招待研究者と交流を通して当該分野の更なる活性化に貢献してきた。1997年以後、分子科学研究所がCOE機関として指定されたことに伴い、COEコンファレンスとして年1回開催された。2002年からは、文部科学省国際シンポジウムとして、公募に応募する形でこれが継承され、さらに独立法人化に伴い、2004年度からは日本学術振興会に於いて募集・選考が行われることとなった。募集の機関や対象の変化にもかかわらず、分子科学研究所は2003年までに8回の国際シンポジウムを開催している。

この国際シンポジウムは毎年研究所でテーマを決定し、代表者がこのテーマに従って応募し審査を受ける。採択された場合は、岡崎コンファレンスと同様に代表者が所内や外部の関係者と準備委員会を作り、サーキュラーの作成、講演者の選定、プログラムの編成などを実行する。2003年度はこの国際集会在が知名度の高い「岡崎コンファレンス」として定着する願いを込めて、「岡崎コンファレンス2003」としてアナウンスされた。このシンポジウムはかつての岡崎コンファレンスと比べて規模が大きく、2003年度は参加外国人が26名、国内参加者は丁度100名であり、計126名の参加者があった。このような会議を通して形成された国際的な繋がりは、研究面のみならず他の国際会議の組織など大きな影響を及ぼしている。また、国際会議に参加する機会の少ない国内の若い研究者を刺激し彼らの研究意欲をかきたてることも重要である。この岡崎コンファレンス方式の国際シンポジウムは、長期的視野からの展望を議論する国際的な場を提供するものであり、内外の研究者からその成果に対して高い評価を得ている。

このような形での岡崎コンファレンスは、共同利用機関の重要な機能の一つとして、独立法人化後に自然科学研究機構の一員として独立法人化されても継続することが望まれる。

開催一覧（回 課題，開催日，提案代表者）

1. 「金属蛋白質の動的構造と分子設計」2002.11.18 ~ 11.21
北川禎三（統合バイオサイエンスセンター教授）
2. 「機能性クラスター・自己組織化ナノ粒子国際会議」2003.12.15 ~ 12.17
西 信之（分子研教授）